

佐藤清明生家

担当：藤井 成加

命をつないだ‘菊桜’



撮影：2022/4/28

現在（2023年）佐藤家には、4本の‘菊桜’があります。‘菊桜’は人間の助けが必要な木なので、佐藤清明は親木から子、孫と庭に接ぎ木をして絶やさないよう大切に育てていて、いつも大・中・小三つの大きさの木が庭にあったそうです。敷地の南のブロック塀のそばに移植された佐藤家の最初の桜と井戸のそばにある桜は2022年に咲きませんでした。通用門の左右にある桜は美しい花を見せてくれました。この年に咲いた‘菊桜’一輪あたりの花びらの枚数は、数えられたもので120枚～208枚ありました。

菊桜育成保存会は、佐藤清明の遺志を引き継ぎ、貴重なこの桜を後世に残そうと、大切にお世話をしています。

【場所】浅口郡里庄町里見

※敷地には入れません

清明さんのおはなし



この桜は散り際に大変見事で、可憐なくす玉のような花が地面に落ちて風に乘ってコロコロと転がってゆく姿はゆったりとして上品で美しい様子なんだよ。



通用門に入って
みぎわの5代目‘菊桜’
(2022/5/2)



菊桜はまるで大きくなるのを自分から制限しているようなんだ。偉そうにせず横に枝を出して、その地にあわせて大きくなって花を咲かせる姿は、珍しい桜の木の中でもなかなかない様子ですばらしいよね。

かき し しゅうかり
歴史紹介

佐藤家の菊桜は、六高（旧制第六高等学校）から受け継いだ貴重な桜です。
2022年までの歴史を振り返ります。



てまえ わすめ うつ しょうだい
手前に娘さんが写る初代
きくざくら しゃしん ねん
'菊桜'の写真(1952年)

1944年

佐藤清明が'菊桜'を六高から家に持ち帰り、家の前のソテツのところに植える。

1945年

6月、岡山空襲で六高の'菊桜'は焼失する。

1985年

佐藤清明が庭の'菊桜'を、庭師を通して皇居へ献上する。

その後...

自宅の建て替えのたびに'菊桜'は植えかえられた。
3代目は多くの花を咲かせたが枯れる。



きくざくら
旧母屋前の
2代目'菊桜'

2018年

- 木の回復を待って湯の池側の日当りの良いところ（一番南のブロック塀のところ）へ移植する。
- 2個の木のガンを除去して木炭を入れ、根に適度の湿気と活性化を保つ作業をする。
- その結果、移植後の4代目はたくさん花を咲かせる。
- 4代目を移植させる時に剪定した枝木を、樹木医が持ち帰り、接ぎ木をして育てているものが5代目となり佐藤家だけでなく、岡山県の様々な場所へ植えられていく。



いしげ だいめ きくざくら
移植後の4代目(2019/4/27撮影、
2021年枯死)

1952年

4月15日、庭の'菊桜'の中から宗堂桜も添えて、昭和天皇に献上する。

1953年

- 岡山の池田家に嫁した厚子さんの新居の前の庭にお印である'菊桜'の苗木を持参して移植する。
- 同年秋、昭和天皇が岡山にお越しになった際、岡山後楽園で行われた記念植樹で佐藤清明の苦心して育てた'菊桜'が植樹される。



2017年

樹木医に依頼して、ソテツのところにある4代目周辺の土地改良作業を行う。
ソテツのそばでは、これ以上大きくならないと判断。



ソテツのところにある4代目
'菊桜'(2017/4/27)

2020年

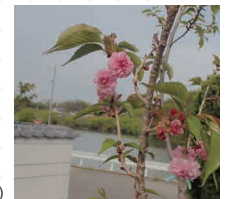
- 井戸のそばの3代目の木は枯れていたが、残った株から出ていたわき芽に、5代目を接ぎ木をする。
- 5代目を通用門を入れて右側に植樹する。

2021年

- 2018年に移植した4代目が枯れる。
- 5代目を通用門を入れて左側に植樹する。

2022年

通用門を入れて左側にある5代目の周辺に防草シートを敷く。



つうようもん はい ひだりがわ
通用門を入れて左側の
だいめ きくざくら
5代目'菊桜'(2022/4/18)